

広報すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

{ 6/15 }
令和4年(2022年)
No.2331

人生の苦も楽も
唸^{うな}りで笑いに。

三味線の音色にのって、時に小気味よく、時に圧倒されるほどの迫力で唸りながら、さまざまな物語を演じる浪曲師・玉川太福さん。芸歴15年となる今年、杉並区区制施行90周年記念事業の一つとして、浪曲「内田秀五郎一代記」を創作し演じます。太福さんが語る浪曲の魅力、同作にまつわるエピソードなどをお届けします。

特集

人
すぎなみピト

浪曲師
玉川太福



〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> 📄 発行: 杉並区 📝 編集: 広報課

お知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、本紙掲載の催し等が変更・延期または中止になる場合があります。最新情報は、区ホームページまたは区(地震・水防情報等)ツイッターをご確認ください。

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。



浪曲の世界に飛び込み15年。杉並の偉人・内田秀五郎の生きざまを伝える

お笑い大好き少年。浪曲に衝撃を受けて浪曲師へ

—太福さんは何をきっかけに浪曲と出会ったのですか？

子どもの頃はお笑いが大好きな少年でした。友達を笑わせるのは好きだけど、自分が芸人になって人前に出るほどの度胸はない。それなら裏方でお笑いの世界に携われたらと放送作家事務所に入りましたが、やりたいこととのズレを感じて断念し、自作のコントで自ら演じる側へと転身しました。同時に、演劇における笑いの魅力を知り、お笑いから演劇の世界へと身を移していきました。そんな中で信頼する俳優さんに誘われて浪曲を聴きに行ったのが初めての出会い。26歳の時でした。



—最初に浪曲を聴いた時はどんな印象を持ちましたか？

最初の浪曲は浅草の木馬亭にて、師匠福太郎を含めて5・6席聴きましたが、その時は演目の内容そのものにはまだピンとこなかったんです。ただ、唸りや三味線の響き、独特の趣に満ちた空間まで、全てが自分にとってあまりに未知な世界でびっくりしました。その後、もう一度見に行き、見事にハマりましたね。

—浪曲師になろうと決めたのはなぜですか？

浪曲と出会った頃はちょうど自身の過渡期で、芸能の世界を目指した当初の根柢のない自信も崩れ、食べていける見込みも立たない。そもそも自分の目指すところが分からず、岐路に立っている時でした。そんな中、浪曲はすごく面白い、もしかすると自分がこれまで書いてきたようなコントを合わせられるのかもしれない、合わせたらどうなるんだろう？ と考え始めている自分がいたんです。当時は若い浪曲師がいなかったこともあり、20代の自分が飛び込む価値があると考えたことも後押しし、師匠の下へ弟子入りしました。

師匠との別れ。思い出の演目で初舞台を踏み

—実際に浪曲を演じる側に立ってみていかがでしたか？

浪曲というのは、落語のような語りや三味線の伴奏と歌の部分が加わった話芸で、芝居あり歌ありのミュージカルを三味線の伴奏の下、一人で演じるようなものです。感情が盛り上がる場面といわゆる「歌」が



入り、それを浪曲の世界では「節」と言い、「歌う」ではなく「唸る」と言います。実際に弟子入りして稽古を始めてみると、それはもう難しく…

—どんな部分とくに苦労されましたか？

日常でまったくなじみのないものでしたから、まず三味線の音に乗ることが非常に困難でした。そもそも三味線に「乗っていないのだ」と気付くまでに数年かかりました。また、ラグビーをやっていたので声の大きさには自信がありましたが、音楽的な下地は皆無だったので、節回しを身に付けるのにも苦労しました。昔の浪曲師が河原で寒い中練習して上達したと聞いて冬の荒川で凍えながら唸ってみたり、下地のない分、浪曲らしい声をなんとかして作ろうとしたり努力しました。入門する際、浪曲協会に話を聞いた時は「カラオケが苦手？ ああ、歌のうまさは全然関係ないから大丈夫ですよ」なんて言われて勇気をもらいましたが、今振り返れば大いに関係ありますね（笑）。

—最初に覚えた演目は、福太郎師匠との思い出深い一作だとお聞きしています。

弟子入りをお願いしに初めて師匠に会いに行った日、師匠が目の前で披露してくれたのが「不破数右衛門の芝居見物」という演目でした。師匠は僕が入門してから約3カ月後に事故で他界されたのですが、師匠が授けてくださったこの不破数右衛門の録音テープを何度も繰り返し聴きながら、そして、おかみさん（福太郎師匠の妻であり曲師の玉川みね子師匠）をはじめ、協会の皆さんなど多くの方に背中を押ししていただきながら、芸を習得していきました。

—初めて舞台上立った時はどんな思いでしたか？

初舞台は平成19年6月、師匠が亡くなった翌月でした。会場は時々師匠の浪曲会を開催していたスナック。本来は師匠の前座的な立場で出る予定でしたが、姉弟子が代演を務め、その前座として「不破数右衛門の芝居見物」を披露することとなりました。この初めての舞台、30分の芸がとてつもなく長く感じましたね。お客さまが目の前にいて、その視線の全てを一人で背負いながら、逃げも隠れもできないのが浪曲師。大変な世界に入ったな…！と感じました。それから今年で15年、さまざまな局面がありました。浪曲師をやめようと思ったことは一度もありません。



杉並区区制施行90周年記念事業に参画

—今年、杉並区区制施行90周年記念事業に参加されています。太福さんにとって杉並区はどんな場所ですか？

僕にとって杉並区は、浪曲を通してたくさんの縁が繋がったまちです。まだ駆け出しの頃、浪曲好きの西荻窪在住の方と、福太郎を偲ぶ浪曲会の打ち上げで知り合いました。当時僕は風呂なしの家に住んでいたのですが、その方が「それならうちに入り来ればいい」と言ってくださって、本当にお風呂を借りに行くようになりました。さらに「玉川太福浪曲会」まで立ち上げてくださり、西荻窪で定期的に開催するようになりました。その後も地域の方々から「玉川太福後援会」を作ってください、高円寺演芸まつりに毎年出演させてもらうなど縁が繋がっていき、今回記念事業に携わることとなって、とても光栄に感じています。

—杉並を代表する偉人・内田秀五郎がテーマですが、どのように浪曲に仕立てていったのですか？

当初は内田秀五郎がどのような人物が分からなかったのが、区が用意してくださった大量の資料を基に彼という人を少しずつもといっていました。すると「とんでもなくすごい人だぞ…」と分かってきて。秀五郎自身の肉声はあまり残されていなかったのが、彼について語られた断片的な情報を集めながら僕なりに人物像に肉付けしていった感じです。エピソードの選別等で区にもたくさん協力してもらいながら、浪曲「内田秀五郎一代記」が出来上がりました。

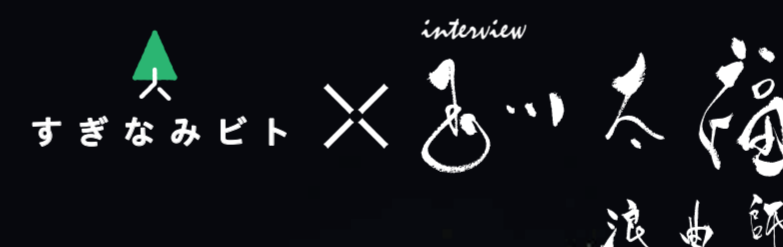
—太福さんの目に秀五郎像はどのように映りましたか？

人物像に迫っていく中で感じたのは、内田秀五郎は常に「将来のため」と「そこに暮らす人々のため」という信念を揺るぎなく持ち続けた人だということ。特に驚かされたのは、自然を切り開いてまちを開発していくことを良しとする時代において、インフラ整備を進めながらも、自然や環境を守る視点をしっかり持ち合わせていたことです。今回の浪曲の中でも「杉並のいや東京の礎を築き上げた功労者」と唸っているのですが、間違いなく杉並のみならず当時の東京を代表する偉人ではないでしょうか。功績や偉業があまりにもたくさんありすぎるので、浪曲の中で僕は「秀五郎さん何人かいた説〜！」と唸ってます（笑）。

生涯をかけて浪曲に取り組み、芸を磨いていきたい

—浪曲「内田秀五郎一代記」を披露するにあたり、意気込みをお聞かせください。

浪曲はお客さまの前で披露し、その反応を受けてさらに練り上げ、仕上げていくものです。この過程がものすごく大切だと僕は考えています。今回の記念事業の浪曲は、内田秀五郎のことを知らなくても、楽しく笑いを交えながら老若男女が聴けるものにしてほしいと期待を込めて、区は依頼していただきました。多くの皆さんの前で披露を重ね、よ



プロフィール：玉川太福（たまがわ・だいふく）昭和54年新潟県新潟市生まれ。千葉大学法経学部（現・法政経学部）卒業後、お笑い芸人や役者として活動する中で浪曲と出会う。平成19年3月に二代目 玉川福太郎に入門し浪曲師の道へ。同年11月に浅草木馬亭で初めて本格的な舞台を踏み、平成25年に同場所にて名披露目。新作浪曲にも果敢に取り組み、浪曲定席のほか落語の寄席にも多数出演中。令和3年度花形演芸大賞 銀賞を受賞。

り良い作品に仕上げたいです。

—太福さんにとって浪曲とはどんな存在ですか？

浪曲は僕にとって人生そのもの。生涯をかけて取り組み、芸を磨いていきたいです。そしてお客さまにぜひお伝えしたいのは、浪曲はなんといっても生で聴いてこそ、その魅力を最大限に味わえるのだということ。声や三味線が体中に響いて臨場感に圧倒されます。その場を共にするお客さま同士の出会いも含めて、一席一席がまさに一期一会。古典の演目はちょっと難しそうだと感じる方は、今回の「内田秀五郎一代記」をはじめ、新作浪曲を入口にしてみてください。寄席の雰囲気は堅苦しさがなくとても自由ですので、初めての方もぜひ気軽に聴きにきてもらえるとうれしいです。

Information

浪曲「内田秀五郎一代記」の公演情報はこちらから！

区ホームページでは、杉並区区制施行90周年特設ページを開設しています。「すぎなみ5ストーリーズ」として区の歴史を語る上で欠かせない出来事を紹介するほか、90周年を祝うイベント等の情報も掲載していきます。区立施設での玉川太福さんの公演情報についてもこちらからお知らせします。ぜひ、ご覧ください。



紙面には掲載しきれなかった取材のこぼれ話も動画で紹介しています。

YouTubeで配信中!

すぎなみビト MOVIE

すぎなみビト「玉川太福さん」のインタビューが動画でも楽しめます。右2次元コードからご覧いただけます。

杉並区公式チャンネル